

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 53 号

令和 6 年 2 月 21 日



「 清 梅 春 蘭 」

大島 五雲 作 (初代)

井波彫刻の歴史は瑞泉寺本堂再建（1763 年）のおり、東本願寺の御用彫刻師である前川三四郎が派遣され、地元の北村七左衛門ら 4 人が前川から彫刻の技法を習ったのが井波彫刻のはじまりとされている。その後、代は進み田村次吉（12 代与八郎 1832～1886）の頃より井波彫刻は、寺院彫刻から曳山彫刻、欄間彫刻へと優美さ繊細さを増しながら浸透していった。

神戸市にある（公）竹中大工道具館において令和 5 年 9 月 30 日から 12 月 3 日まで「井波彫刻—物語を彫る」というテーマの展覧会が開催され、本館所有の初代大島五雲作の「清梅春蘭」：上掲写真、他 1 点も展示された。

大島五雲（五三郎・五作 1861～1937）は、田村次吉の弟子で本校創校当時の木彫科教職員を 1950 年から 1 ヶ年勤めたこともある。

また、この作品は 1915 年のサンフランシスコ万博に出品されたもので、緻密・精巧な梅の花枝、蘭の花草を配しながら大胆な透かしを取り入れ空間の広がりや軽快さを強く感じさせる名品。

第30回 青井中美展

11月17日(金)
12月3日(日)

県内39校の中学校から466名の応募があり
250点が入選した。(内入賞は26名)

(絵画部門248点内120点入選、彫刻・工芸
部門14点内70点入選、デザイン部門104
点内60点入選)

各賞受賞者

青井大賞	河田さくら子(新湊)
富山県知事賞	小原好稀(城端)
富山県教育委員会教育長賞	北川楓生(城端)
最優秀賞	高森優亜(高陵)
優秀賞	二上凛(大門)
富山新聞社優秀賞	吉田朱理(大門)
チューリップテレビ優秀賞	木戸匠我(大門)
優良賞	松本朱音(小杉)
優良賞	森楓駕(五位)
富山新聞社優良賞	杉山唯衣(戸出)
富山新聞社優良賞	田川琴音(石動)
チューリップテレビ優良賞	道田小晴(志貴野)
チューリップテレビ優良賞	若木彩加(新湊)
チューリップテレビ優良賞	福田晃靖(石動)
佳作	盛田真愛(城端)
佳作	田邊陽規(出町)
佳作	福田晃靖(石動)
佳作	辻由紀乃(平)
佳作	松澤莉子(出町)
佳作	横井泰人(出町)
佳作	宮本紗瑛(庄川)
佳作	内潟クヲ(石動)
佳作	林花音(出町)
佳作	宮崎真衣(五位)
特賞	小田原木花(高陵)
特賞	御器谷佑太(大谷)
特賞	中村明日香(出町)



● 富山県知事賞
「僕の経歴」
南砺市立城端中学校
3年 小原 好稀



● 青井大賞
「15の奏」
射水市立新湊中学校
3年 河田さくら子



● 富山県教育委員会教育長賞
「暗闇の中の光」
南砺市立城端中学校
2年 北川 楓生

令和5年度 課題研究作品展

2月17日(土) ~ 3月1日(金)

各学科で選ばれた作品を展示した。

令和5年度 課題研究表彰者一覽	賞	科	課題名	氏名
	優	機械	お掃除ロボット	上田 匠真・菊地 眺生・木村 琉意・二口 智成 本田 真真・森 龍己
電子機械		鉄球運びゲームの製作	川原 大輝・関藤 慶太・草野 翔・竹内 蒼志 仁岸 歩・西淵 夏弥・張田 翔	
電気		反射神経ゲーム	瀬藤 弘気・惣田 泰地・高橋 京佑・辻野 学史 原田 和弥	
建築		三種の糸が紡ぐ住まい	小牟田 哩玖・一村 隼佑・小森 胡桃	
秀		土木環境	庭をDIYしてみた!	福田 一惺・塩谷 英樹・島 優輝・山本 斗偉 吉田 愉轅・渡辺 豹馬
	工芸	自在伊勢海老置物	浅野 咲都	
	デザイン・絵画	感情と仲良くなろう大作戦! ~スクールカウンセリングを彩るために~	林 則希	

企画展

工芸科作品展 2023

3月11日(土)～4月16日(日)

私は工芸科作品展に作品を出品するにあたり動物の打ち出し・鍛金パネルをがんばって製作しました。

私は動物のパネルを作る時、何をモチーフにしようかとても迷いました。そんな時先生が好きなかメレオンは質感やディテールがおもしろいということかメレオンを製作しようと思いました。しかし、カメレオンの打ち出しは思ったように上手く進みませんでした。体の構造が複雑だったり、目の迫力が出なかつたりして製作に苦戦しました。だからこそ、常にパソコンを隣に置き形がおかしくないか、パランスは合っているかなどを確認しながら作業を進めました。そうすることで自分の思ったカメレオンを作りあげることができました。

最後に私は、この動物の鍛金パネルの製作を通して打ち出しのスキル、モチーフを観察する力がつきました。次の作品も動物の予定なのでこの力をいかしていきたいと思います。

36H 浦 史樺



工芸科の三年生は木工の角椅子・金工の銅板鍛金・漆のおぼんの他に、工芸計画での作品を展示しました。作品案から現物を作る作業まですべての工程を生徒が行った作品は、どれもすばらしい出来栄です。その中には第三十六回工業技術論文発表会(ミラコン二〇二三)にて最優秀賞を獲得した作品があります。その中の廃木材で作られたパティションは、何度も木の組み方を考え自

在に曲がるように試行錯誤しました。頑張った作品をたくさんの方に見ていただけたと思うととても嬉しい気持ちになりました。生徒の作品には一年間の努力が詰まっていると感じました。私は、努力した事が形として残せる点が工芸のすばらしさだと思います。

施無畏(せむい) 映像によるインスタレーション展

6月10日(土)～6月25日(日)

若林 斉

現代はコロナ禍や戦争などの地政学的リスクによるストレスや文明の進化とともに便利になった反面複雑化した生活や人間関係によるストレスが増加しているように感じます。そんな世相の中、人々に安らぎを与えるものは何か、私達が自身の安らぎや幸せを感じるためには何か、私達が自身のか、それが私の制作活動の原点でもあります。

以前から癒しのアートとしての空間造形を手掛けてきましたが、今回は「施無畏(せむい)」をテーマに制作致しました。仏像の手のポーズ(印相)に施無畏印というものがありますが、その印には「恐れることはありません」と人々を安心させる意味が込められています。私の作品を通して、ひとときの安らぎや、何らかの気付きがあれば幸いです。来場者の皆様にこの場をお借りして感謝申し上げます。有難うございました。



同窓生作品展

～教職員・卒業生～

7月8日(土)～7月28日(金)

◆同窓生作品展出品者(50音順)

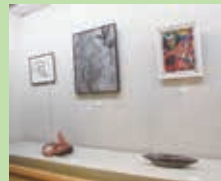
- 猪原 惟 岩城 大介 太田紀久雄
- 大村 雅章 河上 健三 米納 睦子
- 坂井 茂 笹波 美恵 佐藤カオル子

◆教職員出品(50音順)

- 炭谷 尚夫 高橋 晴美 寺腰 健一
- 豊本 外良 中山 裕晃 般若 保
- 渡辺 敏彦 寺 直彦 大野 賀世
- 六渡 満 中嶋 真也
- 城石 和良 鈴木甲一郎
- 菅原 幸 石黒 律子

◆同時開催

高岡市展 受賞入選作品



富山大学芸術文化学部絵画分野選抜展

12月10日(日)～1月8日(月・祝)

富山大学芸術文化学部3年 竹田ひより

昨年の12月10日から今年の1月8日まで青井記念館美術館で展示をさせていただきました。美術館のご担当者様とは準備段階から何度か連絡をとらせていただき、数々のご協力のもと無事に展覧会を開くことができました。

私は高岡工芸高校デザイン・絵画科出身であり、青井記念館美術館という思い出深い場所で行った今回の展示はとても貴重な体験になりました。高校時代には、新入生の歓迎会や、富山大学の学生さんと協力した制作、卒業制作の発表会などの際に使わせていただきました。ポスターやDMの制作、展示計画の立案など、今回の展示に通ずることを経験していたため、展示の準備をしながら自身の成長を感じる瞬間が多くありました。



展示作品の配置やライティングについては、出品者の学生、教員の全員で決定しました。消火器や非常口の案内看板が設置されている条件の中で、より魅力的な配置にするために、隣り合う作品、向かい合う作品同士が引き立て合うよう、色彩に

重点を置いて意見を出し合いました。異なる感性を持つ者同士で配置を考えると意見が食い違う場面が多くありましたが、全員が遠慮せず意見を出し合った結果、全員が納得のいく配置、ライティングになりました。

私にとって今回の展示は、高校時代を思い浮かべながら自身の成長を感じる事ができるとともに、異なる感性を持つ仲間同士での話し合いの中で自分の感性や作品の特徴を見つめなおす大変貴重な機会となりました。これからも様々な作品との出会いを大切に、制作活動に励んでいきたいと思っています。

第8回デザイン・絵画科 ギャラリーD

1月20日(土)～2月12日(月・祝)

「ギャラリーDに参加して」 37H 沼田 一路

毎年、ギャラリーDではデザイン・絵画科全学年の作品が展示されています。1・2年生は1年間実習で制作した作品、3年生は課題研究作品展のポスターが主に展示されています。また自主制作作品も多く展示されており、観ていて飽きることなく楽しめると感じました。1・2年生の時は自身の作品を観てもらえることの喜びと、先輩方の作品に感動しました。3年生になった今では、過去に自分が取り組んだ課題を観て、懐かしさと共に3年間学んだ上で、もう一度同じ課題に取り組んでみたいと感じました。また1・2年生の作品からは、一人ひとりの個性が感じられる独創的なデザインやアイデアに圧倒されました。ギャラリーDを通してデザイン・絵画科は学年関係なく、様々な刺激を貰える素晴らしい学科だと感じています。これからも様々な作品を観て刺激を貰おうと思うきっかけになったと思います。この先も、高い意識を持ってデザインに関わっていききたいと思っています。



同窓生ギャラリー

大野賀世 作品展

4月29日(土)～5月21日(日)

大野 賀世(H26 デザイン・絵画科卒)

このたびは、高校時代の恩師にお声がけいただいたご縁で、青井記念館美術館という懐かしい場所で初個展を開催でき、とても嬉しく思っています。会場には、幼少期から現在までの主要絵本11点を中心に、デジタルイラスト32点や大学の卒業制作の短編クレイアニメーション映画等を展示させて頂きました。



両親が芸術家で子供の頃から芸術が身近にあり、特に絵本が大好きでずっと絵本を作り続けてきました。現在、絵本作家になる夢を追いかけているイラストレーター・映像クリエイターとして活動しておりますが、自分の作品、特に絵本を沢山の方向に見ていただく機会はなかなかありませんでした。

今回の個展で初めてそのような場をいただき、改めて、応援して下さる皆様や作品を見て下さるお客様がいることの素晴らしいさを実感いたしました。本当にありがとうございます。これからも絵本作家を目指して、見てくださる方の心に少しでも幸せをお届けできるような作品を作れるよう精進して参ります。

第151回

寺直彦木創展

富山木象嵌工芸会作品展

4月29日(土)～5月21日(日)

寺 直彦(S61 工芸科卒)

コロナ禍も落ち着き、お陰様をもちま

して四回目の木創展、二回目の木象嵌作品展を開催させていただきました。期間中、多くの方に足を運んでいただきましたこと、嬉しく思います。今回は在校生の生徒さんに教養講座として、私の作品制作について、及び、県指定の伝統工芸である富山木象嵌についてのお話をする機会をいただきました。



不慣れたため説明に至らない点があったかと思いますが、興味を持たれた生徒さんから質問をいただきました。「作品はイメージだけで作っていますか?」との問いに、設計図はなくイメージだけで作っていると答えました。また、制作の途中で行き詰ると、しばらく眺めてイメージを整理したり、他の作業をするなど気持ちを切り替えて、模索しながら納得のいくフォルムが出来上がるまで仕上げていくこととお話しました。

富山木象嵌については家内の方から、草分けである中島奎堂先生が県立工芸高校(現高岡工芸高校)を卒業した縁があること。また木象嵌の手法などについてご説明をしました。また木象嵌のお話の場を設けていただき、高校生時代を懐かしく思い出しつつ、若い生徒さんから元気をいただいたことで、新たな挑戦の気持ち湧いてきたところで、最後にになりましたが、作品展にご協力をいただきました方々に、この場を借り心より感謝を申し上げます。

第152回

「WHO-INSIDE?」 中島真也 写真展

6月10日(土)～6月25日(日)

中島 真也(H27 デザイン・絵画科卒)

青井記念館美術館での展示は、今回が初めて

となります。お声がけいただきありがとうございます。

今回の写真展は、将来について自分が特に思い悩んだ時期や、行動に迷いがあるタイミングで撮影した写真を集めました。デジタル写真とフィルム写真を混合させています。

記録としての写真ではなく、よりグラフィカルで概念的な観点で作品を選びました。「曖昧」というメインコンセプトの元、第三者が観て各々で想起することで完成する作品となっています。

高校時代に聞いた「まず構図！」という、ある先生の一言は今でも覚えていて、その言葉が今の自分に大きく影響を与えていて、作品を作る上でのベースとなっていて、作品を作る高校を卒業してからは、新潟、東京等と住居を転々としてきました。

現在は長野県に拠点を移し、写真映像作家兼グラフィックデザイナーとして活動しています。フリーランスになってからというものの、忙しい日常を送っているところですが、自分の感性を忘れないように日々作品づくりに励んでいます。



第153回

第10回 工芸建築科同窓会・作品展

9月3日(日)～9月24日(日)

24H 名田 纏

「建築科同窓会の展示をみて」

今回、二回目の同窓会作品展を見ました。昨年見た時とまた違い、建築だけでなく、工芸品なども少し混ざっており、普段見ることのないものも見れたので、楽しかったです。また、特に印象的だった作品は、大野建築設計事務所さんの「町家建築の再生」です。この町家は、明治35年に立てられている家で、全て自然

素材でつくられており、とても環境にやさしい造りです。しかし、今は昔と違い、加工した製品など、様々な素材を組み合わせてつくっています。自然のものだけでつくった建築、様々な環境にやさしく、良い建築なのか、「今はどうだろう?」と問いかけている文が印象的でした。他にも「カスタマイズハウス」といった作品など、自分も住んでみたいと思える、面白い作品がたくさんありました。私も就職後は、面白いと感じてもらえるような建築をしたいと思いました。

14H 細川 歌那

「ぬくもりを感じられる子ども園」

建築科同窓会作品展を見学し、私が特に印象に残っている作品は、「たかのす認定子ども園」です。私がこの作品パネルを見て最初に感じたことは、この子ども園に通える子ども達が羨ましいということ。理由は内部、外部ともに木をふんだんに使い、木のぬくもりを身近に感じられる空間であること、この子ども園に通う子ども達が遊びやすく楽しく生活できるような工夫が施されていることなど、「設計者の思い」をたくさん感じることができたからです。柱や梁はもちろん、床や窓枠などにも木を使用し、身近に木のぬくもりを感じられることも園にとっても興味をもちました。また、以上児と未満児で異なる空間が求められることから、空間によって構造方式を変え、子ども達が過ごしやすい空間にしているという設計者の子ども達への思いやりがとても印象的でした。



私も将来、建築物を使う人のことを一番考え、人々が笑顔で生活できるような空間を設計したいと感じることができました。

SACHI

—つくりたいをかたちに—

第154回

12月10日(日)～1月8日(月・祝)

菅原 幸(H14 工芸科卒)

2023年12月10日から2024年1月8日まで個展を開催しました。グループ展の経験は何度かありましたが、一人で行く展覧会は初めての経験で何を見ていただければいいのかとても悩みました。悩んだ末、漆をメインに日々制作してきた様々な素材の作品を展示し、主題を「つくりたいをカタチに」とさせていただきました。

メインとした漆の作品は高校生から大学時代、コツコツと作りためてきた作品がほとんどです。社会人になってからは伝統工芸展富山支部に出品するようになり、高岡伝統の勇介塗りの技法を用いた作品も今回の作品展に飾らせていただきました。漆の作品を展示するにあたり、どのように使っていたか、どのように飾っていただくかわかりやすくするため、小物や植物などで飾って普段の生活の中で生かしてもらえらる漆の展示をしています。



また、その他の作品も日々の生活を楽しくしてくれらるような小さな作品が多くなりました。春夏秋冬季節の雰囲気合わせた花の飾り・小物、天井から吊り下げる鳥やクジラのモビール、「不思議の国のアリス」をテーマとしたぬいぐるみ達など色鮮やかになるよう集めました。

今回の展示の会期中、未曾有の被害をもたらした能登半島地震が起きました。幸い美術館も自身の自宅も被害を免れましたが、断水や心落ち着かない時期に展覧会を見に来てくださった方も多くおられました。心から感謝いたします。

特別企画展

本館活動の大きな柱の1つとして地域貢献(収蔵品公開、地域作家招待など)・現役生支援事業が設置されており、今年度は以下の展示が行われた。

デザイン研究部展 2023

Dream Collections

3月11日(土)～4月16日(日)

37H 西谷 駆琉(部長)

デザイン研究部展について

今回のデザイン研究部展は、部員が制作した平面・立体作品を展示させていただきました。Tチーム(ユニ、自主制作)はアクリル画や線描画、オリジナルデザインのワイギョアなどを展示しました。Fチーム(ファッション)はデザイン画と実際に制作した衣装、小物類を展示しました。部活動で制作した作品が多くの人に触れる機会があったので、とても嬉しく思いました。また部員たちで、展示方法やレイアウトを決めて展示することで、部員全員が作品に愛着と責任を持てたと思います。特にFチームでは作品のテーマに合った展示方法となるように工夫し、小物や飾り付けをすることで空間演出にもこだわり、積極的に活動できました。

27H 土佐 真央

デザイン研究部展に参加して

私は今回のデザイン研究部展で、童話の「赤ずきん」をモチーフにした服を高木柊、君と共同制作しました。高木君が描いたデザイン画を元に、2人でたくさん話し合つて素材を決め、放課後や自宅などで制作を進めました。私は服をリメイクすることはよくありましたが、「から作る」ということはほとんど初めてだったのでどんな風に仕上がるか不安もありました。ですが制作期間はとても楽しくて、「次はこうやってみたい」というワクワクが止まりませんでした。今年は2人での制作でしたが、次回は1人で1着を制作したいと思っています。



収蔵作品展

7月8日(土)～7月28日(金)

展示作品

山水図……………	新村弥三郎
金 鶏……………	中島 次郎
銀四分一鹿模様香盒……………	加納 夏雄
散扇金銀赤銅四分一布目小盆……………	作者名不明
らんまデザイン下絵……………	村 金平
鷺打出額……………	松村 治吉
唐夫人置物……………	本吉次郎
唐子置物……………	秦 紹世
渚の幻想……………	尾村 俊明
推朱香卓……………	作者名不明
鳥虫、唐草模様菓子器(七角形)……………	作者名不明
淡黄色盛金薔薇沈水指し香壺……………	作者名不明
手炉……………	村上九郎作
びわの葉に蝸牛置物……………	室江吉兵衛
双鯛彫刻漆器大盆……………	関 義平
	納富介次郎



～ほぼはた未来へ～ 現代工芸美術協会富山会展 2023

8月5日(土)～8月26日(土)

初めまして、私たちは工芸美術団体(二社)現代工芸美術家協会の富山会会員27名です。各部門の会員作品を展示し、ご覧の皆様は工芸美術に対する新しい関心と理解を深めて頂きたく開催させて頂いたいただきます。21日間で430名余りの方に「高覧」いただきました。

(二社)現代工芸美術家協会は今年で創立62年を迎え、創立者には工芸高校卒業生の山崎覚太郎先生、その後大角勲先生らを輩出した日展の構成団体です。今回は富山会員の作品のみでしたが3年に1度、全国展から抜粋された作品と我々の作品を合わせた展覧会を行っております。



工芸生ギャラリ

(現役生徒のためのコーナー)

現役生徒のためのコーナーで今年度は37日の藤川裕羽さんが展示を行った。



尚美展企画展

～文化部作品展～

10月1日(日)～10月29日(日)

美術部 27H 渡辺 楽

僕は今回、青井記念館美術館で行われた尚美展企画展に作品を二点出展しました。今年度は4年ぶりに尚美展が通常規模で開催されたため、生徒や家族だけではなく、たくさんの方々から作品を見てもらうことができました。今回展示したのは「食肉」をテーマにした作品で、大きな生肉の塊のような立体作品と、後ろにその肉の塊が街を歩き回る映像を流すという展示方法を採用しました。そして今回は初めての試みとして、感想やアドバイス、考察などを書いてもらうためのノートを作品のそばに置き、作品を鑑賞した方々に記入してもらうというのをしました。はじめのうちはあまり書いてもらえませんが、尚美展が進むにつれてどんどん書いてくれる人が増えて嬉しかったです。細かな考察を書いてくれる人やイラスト付きでコメントしてくれる人、中には何行にもわたって書いてくれる人など、様々な反応をいただくことができました。その中でも特に印象に残っているのが「コンセプトが何か気になる」という感想です。作品を作るとき、コンセプトをかなり大切にしているのでもそこに注目してもらえたのは本当にうれしかったです。美術館に作品を展示し、多くの人に見てもらう機会を頂けたのは本当に貴重な経験でした。また、今回皆さんからいただいた感想やアドバイスを、これからの作品制作に生かしていきたいと思っています。



編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一丁目二〇
TEL (〇七六六)二一六一三三〇
FAX (〇七六六)二一六一六三一